

シネマズライフ

たかぎ りおん
貴樹 諒音

2014年3月21日発行 第58号 <http://p.booklog.jp/users/rion-takagi>

【最近のこれはお見事!】『白い恋人たちグルノーブルの13日』

一九六八年のフランス・グルノーブルの第十回冬季オリンピック大会の記録映画。映画の華麗さも素晴らしいが、恋人も出てこないのに言い切るところがうまい。

【最近のこれはまずいぞ!】『汚れた肉体聖女』日本映画の旧作。内容は真面目なレスピアンのお話のようですが、題名の汚れっぷりは見事。

映画の風景 日本の風景

※ 埼玉県行田市 忍城 ※



昔・『トロイ』という映画があった。こんな映画だ。古代ギリシャ。トロイの王子ヘクトルは、長年にわたり合っていたスパルタ王メネラオスを訪れ、和平を結ぶ運びとなつた。ところが、ヘクトルに同行して来た弟・パリスはメネラオスの妻ヘレンに一目惚れし、ヘレンをトロイに連れ帰ってしまった。メネラオスは妻を奪取された。いや奪われたメネラオスは、パリスを拒否。そこで、兄を求めるがパリスは拒否。そこで、兄をミユケイナイ王・アガメムノンにヘレンを運ぶの協力を依頼する。アガメムノンは勢力の拡大を狙い、協力する事に戦いには、英雄であるアキレスも参加し、ついに戦いは終わった。

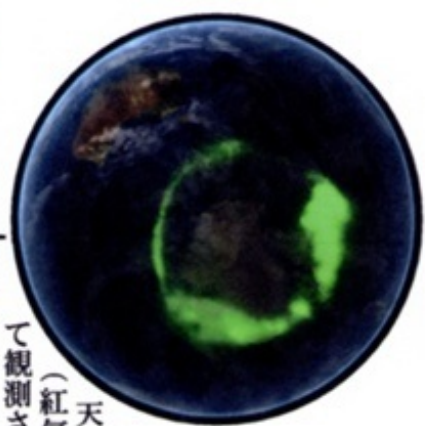
ギリシャ神話で最も有名なお話を、ハリウッド的感覚で映画化した。トロイの街は難攻不落の都市で陥落に十年かかったとも言われており、『トロイの木馬』の奇策を用い、ついに陥落させたとも言われている。

忍城は一五九〇年(天正18年)豊臣秀吉の命で石田三成に攻められ、当時の城代だった成田長親が周囲の農民達三千人を迎え入れ籠城を決定。その為、石田三成は城周辺に堤防を作るといった奇策で水攻めしたが、城は落城しなかつた。どの場所でも籠城するという事は、トロイも忍城も人々の生活は悲惨なものであったという。しかし、どちらもなんとかして回避する方法はなかったのかと思ってしまう戦いでもあります。

『トロイ』2004年 アメリカ 監督：ウォルフガング・ペーターゼン 出演：ブラッド・ピット ダイアン・クルーガー ビーター・オトゥール

ギリシャ神話では結局ヘレンはメネラオスの元に帰る許しを請うヘレンの涙に彼はほだされ彼女を許し、再び仲よく暮らしたとき、ついに元も子もない落ちがつきます。

↑宇宙から見た南極付近のオーロラオーバル(背景の地球は合成) (Wikipediaより)



コラム 冬にオーロラを見てみたいなと思つた件

もう、3月。やつと、暖かくなつたと思つたらまたまた寒くなつたりする。そして、冬は対流気流の動きが少なく、ほこりなどの動きが少ないので空が澄んで見えるというが、最近では花粉とかどこからか小さな粉が飛んできているのでそうでもないような気がする。

天皇時代「赤気(紅気)」と記述されて観測されているというから驚きである。しかし、それも赤い色に染まるという程度で、やはり北欧で見れる空を覆うようなものではなかつたようだ。

花粉・PM2.5・放射能…、段々と日本の空も汚れていく…。早めに美しい日本の夜空も見ておきたいと思うのは早すぎるのだろうか。

冬の空といえば、北極・南極近くでみられるオーロラ。しかし、不思議な事に北極・南極では見られずその周辺地域で見られるように、カナダ・アラスカ・スウェーデンなどが有名。日本ではよほどのいい時期・いい場所でないといえないように、北海道・青森付近見れる事もあるそうだが日本書紀に推古



↑珍しい紫のオーロラ。(Wikipediaより)

☆【最近のこれはお見事!】は見事な映画の題名の紹介、反して【最近のこれはまずいぞ!】は「これは、まずいぞ!」と思う題名を紹介しています。

